



日吉神社（東金市）

〒297-0024 茂原市八千代 2-10  
千葉県教育庁東上総教育事務所  
TEL 0475-23-8125 FAX 0475-25-3143  
E-mail hkzs04@mz.pref.chiba.lg.jp  
第5号

## 東上総管内で実施された「公開研究会」②

令和2年2月7日(金)発行

### 東上総地域「令和元年度 学力向上交流会」

大多喜町立大多喜中学校

11月26日(火)に、大多喜町立大多喜中学校を会場にして、約230名の参加者を迎えて、「学力向上交流会」が開催されました。大多喜中学校では、「学力を向上させるための指導方法の工夫・改善 ～主体的な学びを目指して～」をテーマに国語科、社会科、数学科、理科、英語科の授業が全6学級で展開されました。課題解決に向けて、自分の考えを書いたり話したりして表現したり、ホワイトボードを活用して話し合ったり伝え合ったりしながら主体的に学ぶ姿が印象的でした。全体会では千葉県教育庁教育振興部学習指導課より「全国学力・学習状況調査」の千葉県の結果と調査結果を活用した授業改善に向けた説明や、東上総教育事務所から東上



総地域の課題の提示等がありました。その後の分科会では、「ちばっ子『学力向上』総合プラン(ファイブ・アクション)」の実践事例に基づき、「学力・学習状況」検証事業(小学校、中学校)、魅力ある授業づくりの達人(算数、道徳、外国語活動・外国語)、確かな学びの早道「読書」事業、「ちばっ子チャレンジ100」の活用の7分科会に分かれて、実践校や達人等による発表や効果的な活用方法についての熱心な協議が行われました。本学力向上交流会で得られたことを各学校で共有し、組織的に授業改善に取り組むことを期待しています。



### 「令和元年度 特色ある道徳教育推進校における公開研究会」

長生村立八積小学校

千葉県では道徳教育の充実を図るため、幼(認定こども園)・小・中・高等学校・特別支援学校が連携した道徳教育の推進や県作成の道徳映像教材の活用を含めた授業研究を行い、その成果を発表し、事例の共有を図ることを目的に公開研究会を開催しています。本年度も昨年度に引き続き、11月29日(金)に長生村立八積小学校で道徳の授業が公開されました。八積小学校は研究2年目を迎え、研究の集大成の発表となりました。公開研究会では長生地区だけではなく、他地区からの参観者もあり、たくさんの先生方に授業を参観していただくことができました。「『自分を大切に、他人を大切に育てる道徳教育』-『考え、議論する道徳』の授業の指導方法の工夫を通して-」を研究主題として、役割演技等の疑似体験的な表現活動やウェビングの活用、板書の工夫等、児童の実態を踏まえて工夫された授業が実践されました。授業後の協議会においては、参観者の方々も自分の実践を交えながら有意義な意見交換が行われました。

本年度は中学校においても道徳が教科化され、小・中学校ともに新学習指導要領に基づいた学習が行われています。各校においては児童生徒の実態を捉えて多様な指導方法を取り入れる等、さらに「考え、議論する道徳」への質的な深まりが図れるよう、研究を重ねていただきますことを願います。



### 「学校安全教育公開研究会」

茂原市立東部小学校

11月29日(金)茂原市立東部小学校で、千葉県教育委員会指定「学校安全教育公開研究会」が開催されました。

東部小学校では、「危険を予測し、回避できる児童の育成～地域との関わりを通して～」を研究主題として、安全に対する知識を得るだけでなく、自分自身で判断し、適切に行動する力を育てられました。

公開当日は、各学年1学級、特別支援1学級が「総合的な学習の時間」「学級活動」の授業を展開しました。学年に応じた「交通安全(安全な歩行と横断・自転車の安全な走行)」「生活安全(防犯)」について、話し合い活動や体験活動を取り入れながら「自分の身は自分で守るための意思決定・行動選択」を真剣に学んでいました。

記念講演では、文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課の森本晋也安全教育調査官から、「これから求められる学校安全～安全教育で教師がなすべきこと～」という演題で講話がありました。「児童生徒自身に『生き抜く』とともに『安全な社会をつくる』ための知恵と行動力を身につけさせる安全教育」「児童生徒の命を預かっているという自覚を再認識する学校の安全管理」について考える機会となりました。



## 平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

平成31年4月18日（木）に、国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。

今年度の調査内容は、小学校で国語と算数、中学校で国語と数学及び新たに追加された英語の「教科に関する調査」と、児童生徒及び学校に対する「生活習慣や学習環境等に関する調査」でした。本調査が、各教育委員会や各学校に対し、新学習指導要領の考え方の理解を促すものとするため、「教科に関する調査」では、従来のA問題（知識・技能等）とB問題（活用等）という区分を見直し、知識・活用を一体的に問う形式に変更されました。また、中学校の英語では、「話すこと」の調査において、PC端末等を活用した音声録音方式の問題が実施されました。

教科区分別調査結果

小学校	千葉県	全国
国語	63	63.8
算数	65	66.6
中学校	千葉県	全国
国語	72	72.8
数学	57	59.8
英語	55	56.0

### 教科の傾向と課題（東上総管内）

#### 「教科に関する調査より」

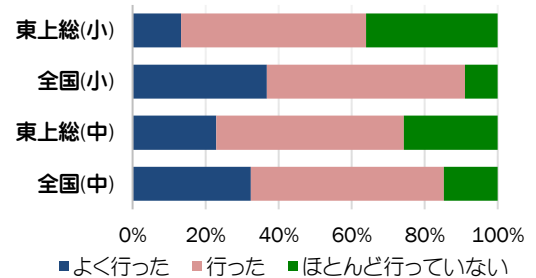
小学校国語では、全ての領域、観点、問題形式において改善傾向にあり、昨年度より全国平均との差が小さくなっています。小学校算数では、「図形」領域において若干上昇しましたが、全国平均と比較し全体的にやや低くなっています。中学校国語では、昨年度に引き続き、文章の内容や書き手・話し手の意図を捉えたり、目的や意図に応じて根拠を明確にして、自分の考えを表現したりすることに課題があります。中学校数学では、全ての領域、観点、問題形式で全国平均より低くなっています。とくに「関数」の領域においては大きな課題があり、日常生活における問題に対し数学を活用して解決できるように指導していく必要があります。

各調査の共通の課題として、記述式の問題形式に課題が見られます。中学校数学では、約半数近くの生徒が記述式問題に対して、「途中で諦めた」または「全く解答しなかった」状況にあり、無解答率が高くなっています。また、中学校英語では、「自分の考えや気持ちを英語で書く活動が行われましたか」という質問に対し、指導者と生徒の認識の間に大きな差が見られたことも特徴的な結果となりました。

#### 「生活習慣や学校環境等に関する調査より」

「全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行ったか」という質問に対し、「ほとんど行っていない」と回答した学校の割合が、非常に高い結果となりました。また、小学校では家庭学習の時間が「1時間未満」の児童の割合が全国平均より高い傾向にあります。校内において様々な視点から児童生徒の現状を把握・分析し、指導改善に活かしていくとともに、学校からの積極的な情報発信により、保護者や地域等の理解と協力のもとに十分に連携をとりながら、家庭における学習習慣や生活習慣等の改善に向けた取組を行っていく必要があります。

Q. 自校の調査結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか。



学校質問紙調査結果より（東上総管内）

### PDCAサイクルの確立

「全国学力・学習状況調査」の目的は、全国的な教育施策の成果と課題の検証・改善だけでなく、各学校の児童生徒の学力や学習状況を詳細に把握・分析し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることです。そして、そのような取組を通じて教育に関する継続的なPDCAサイクルを確立することを目指しています。

#### 【チェックポイント（例）】

- 学校全体の結果として捉えているか。
- 調査実施後、児童生徒の解答用紙を記録し、児童生徒の学力・学習状況を把握しているか。
- 分析ツールの各シートを使い、経年比較や設問ごとの解答状況等を詳細に分析し、結果を授業改善に活かしているか。
- 調査結果を踏まえた学力向上策を全職員で検討しているか。 等

各学校の取組状況は  
いかがですか？



また、文部科学省・国立教育政策研究所や千葉県総合教育センターより送付されている（分析結果）報告書には、児童生徒の学力・学習状況を総合的に分析・評価して、指導改善の留意点が具体的に示されています。さらに、国立教育政策研究所のWebサイトには指導改善の参考となる授業アイデア例が多数掲載されていますので、是非御活用いただければと思います。

\*\*\* お詫び \*\*\*

前号において、「『ちばっ子の学び変革』推進事業（1/24 高根小学校）」を紹介いたしますとお伝えしましたが、紙面の都合により、次号に掲載いたします。